月報　シオン山

２０２６年１１月１日発行（No５１３）

****

日本バプテストシオン山教会

〒803-0846　北九州市小倉北区下到津２－１５－２１

Tel(093)561-0772　Fax(093)561-0760　E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

（ローマへの信徒への手紙１２章１５節）

旅に感謝

守田牧子

猛暑日が続いた日々も去り落ち着いて過ごせる季節となりました。日々、神さまに健康が守られている事に感謝一杯です。

さて、１１月の月報に記載を依頼されて何を書こうと自分の心の貧しさを痛感しました。

さて私は合唱団北九州聖音楽研究会に入会して音楽を通してクリスチャンになりした。シオン山教会には西南女学院中学に入学してから通っています。短大卒業後に職場が女学院の幼稚園で給食の栄養士と事務員として。その後、中高事務室、短大経理課、本部経理課、学院宗教主任室に勤務しました。その間もシオン山教会には通ってました。1976 年に所属していた合唱団がマタイ受難曲の公演を決めた折に改めて聖書に目を通していて受信の決心をし荒瀬昇牧師によりバプテスマを受けました。それから現在までシオン山教会に通っています。

さて今年１月に冬季オリンピックがミラノで開催されました。毎日テレビで街の様子が写し出されミラノに二度旅した私は色々と思い出しました。まずサンタグラッチェ教会にあるレオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐の壁画です。壁画は修復前でしたが弟子達の表情を見て、何を語っているのかなと思いつつ時間制限も無くてゆっくりと観ました。二度目は見学時間は 20 分と制限されてました。今は予約制になっています。

さて最近手にした「復活最後の晩餐」と題された本（渡辺晋輔著）ではコンピュータ・グラフィックスで再現された最後の晩餐を見ると弟子達一人一人の表情がよく分かりまします。緊迫した中で弟子達は厳しい表情をしており、イエスは両手を広げ目を伏せて弟子達の声を聞いている様子です。ユダは厳しい表情で右手の包丁を後ろ手にし身を乗り出して左手をイエスの方へ指さしている。各人の食卓の皿には何も無く、飲みかけの赤ワインのコップがあり又小魚の乗った一大皿と各人には小さな丸まったパンが置かれています。弟子達の声が聞こえてくるようです。

そしてミラノにはミケランジェロの最後のピエタ像（マリアが亡くなったイエスを膝に抱く像）がスファルツェスコ城美術館にあり訪れました。ローマのヴァチカン大聖堂のピエタが有名ですがこのピエタはイエスが母マリアを背負っていると解説書に記載されてますが私には母マリアが後ろからイエスを支えていように見えます。その悲しみの表情に心引かれ受難節にはいつも思い出しています。

さて、今年の冬季オリンピックがミラノで開かれ、テレビ放送で二度の旅を思い出し心豊かな時間をお過ごしました。そして、フィレンツェにはフラ・アンジェリコの有名な「受胎告知」があります。修道院の二階に上る踊り場の壁の正面にその絵はありました。　　二度目に訪れて階段を上り詰めた時、直ぐに写真を撮りました。カメラで写す事を禁じられました。何時もクリスマスを迎える頃にこの絵を思い出しています。

さて、オリンピック開催地は私が一番大切にしている降誕人形が作られて場所とわかりました。

ミラノの山岳地帯ある修道会で作られています。地元のドロミー堆積岩を粉状にして捏ねて人形の型に流して作られた人形です。何時もこの人形はどの様な所で製作されているのかなと思ってました。冬季オリンピックでやっと判りました。この人形は表情がとても良くて大変気に入り、いつも扱う時は落とさ無いようにと気をつけて扱っています。玄関に飾るのが定位置で来客の皆さんが褒めて下さり、クリスマス人形で心温まる気分となり嬉しく思ってます。そして 11 月にはクリスマス用品カード等の購入しクリスマスの準備もはじまります。

人生のすべての重要なものと同様、素晴らし旅行は一芸術作品である。A.シュアレス